9 月 12 日　「山形の味覚を仙台で味わう　国分町」を開催

　年初より山形べにばな会と交流を深め山形の横丁文化を探求すべく計画していたが山形べにばな会より受け入れ態勢が整わないとのことから開催地を山形から仙台に変更して開催することにし、東北地域最大の魅力ある横丁、**「国分町」**の山形料理居酒屋で開催した。
国分町は戦国時代に陸奥国分寺の門前にあった町の住民が、仙台建設の際に集団移転して出来た町。名前の由来はその住民の中、現在の若林区薬師堂周辺から宮城郡南部にかけ勢力を張っていた武士の一族、陸奥国分氏から来ている。バブル時代、国分町には４０００軒の飲食店一日５万人の利用者がいたが現在は２７００軒の飲食店があり、東日本大震災・コロナ等の影響で利用者はかなり減少したが、現在は金・土に限っては６～7 万人に増えている。
　９月１２日(木)、郷土料理居酒屋「笑美酔(えびす)」て開催した。今回は山形の居酒屋を意識し山形料理をつまみに山形の地酒等で大いに盛り上がった。(刺身・天ぷら・鍋なし)
　山形のつまみ：生麩刺し・だし豆腐・玉こんにゃく・芋煮・肉そば・山形の漬物等
　地酒：出羽桜(天童)・三十六人衆(酒田)・写楽(会津)・一ノ蔵(大崎)・綿屋(栗原)
今回、利き酒師が不在のため地酒の話が聞けなかったが山形地域の添乗の際のエピソード、旅館(女将)の話等を中心に予定の時間をオーバーするくらい盛り上がった。その後参加者は昔通った店を探しに国分町の闇に散った。

「めでためでたの若松様よ　枝も栄えて葉もしげる」

いつか山形の横丁で飲んで見たいものである

【参加者】高橋翁・岡部修二・高橋健治・前田健二・佐藤勇一　計５名

＊今回病気での欠席が多く出ました。健康には十分注意しましょう。　(佐藤勇一記)